



令和元年9月号

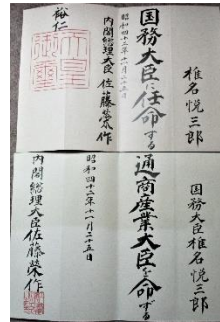
椎名家資料 調査シンポジウム

令和元年9月21日(土)《後藤伯記念公民館》



椎名悦三郎は、後藤新平の姉(初瀬)の嫁ぎ先である椎名家の養子となった。新平とは叔父・甥の関係。

「ロッキード事件関係資料」や宮永岳彦画伯の「小説『大風呂敷』原画(12点)」等、公開資料19点が、公民館と記念館とに分散展示されました。



「椎名家資料調査シンポジウム」が、後藤新平ゆかりの「後藤伯記念公民館」(記念館に隣接)で開催され、約130名が参加しました。

東北大学伏見岳人教授・岩手大学麻田雅文准教授、市歴史遺産課高橋和孝学芸員が成果報告をし、井上正也成蹊大教授がコメンテーターとなりました。椎名家資料は、2017年に市が寄贈を受けたもので、ある程度資料群の概要が見えてきたことから、今回、経過報告を行ったものです。

開会式では、東京から駆けつけていただいた椎名素夫氏の娘さんの夫である加藤周二氏よりご挨拶をいただきました。



先に高橋学芸員から、「椎名家資料の概要」として、
「1. 椎名悦三郎議員活動文書、2. 椎名素夫議員活動文書、3. 選挙事務所関連文書、4. アルバム・栄典類」の4種類の群にまとめられるとの発表がありました。

次に伏見教授から、「国家指導者・椎名悦三郎の選挙区地盤」、麻田准教授から、「椎名家文書の戦後外交史料」の発表がありました。

井上教授からコメントをいただいた後、フロアからの質疑応答が行われました。以下は、地元新聞社(岩手日報)に掲載された伏見教授の談の一部抜粋です。

「(椎名の評価する点は?)全体を見てバランスを取る大局観や先見性にたけていたと考える。椎名氏が韓国や中国、台湾との関係を築いたことは現在の情勢にもつながっている。」

